

閉会挨拶（9月10日）

運輸総研理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、今後の予定のお知らせの前に、一言申し述べさせていただきます。

まず、貴重なお話をして下さった横江大使、小島教授と山内所長、長時間にわたりご参加いただいた大勢の皆様、そして当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に心より御礼を申し上げます。

横江さんとは、私は2002年に国土交通省鉄道局で初めてお目にかかり、同じ京都出身ということもあって、意気投合し、今日までお付き合いいただいております。2003年に私が航空局の関空担当に異動してからは、共通乗車券をフル活用してインバウンド振興に多大なるご協力をいただき、2008年に私が観光庁設立の作業をしていた時に YOKOSO! JAPAN 大使になってもらいました。

さて、本日の講演の中でICカードの支払の方式として、PiTaPaの「ポストペイ方式」すなわち「事後精算方式」と、Suica・ICOCAなどの「プリペイド方式」すなわち「事前チャージ方式」が出てきましたが、横江さんは、2002年当時から、ICカードの相互利用を実現するべく精力的に活動されるとともに、これに併せて「ポストペイ方式」の普及に熱心に取り組んでこられました。

結果として、I Cカードの相互利用は現実のものとなりましたが、残念ながら、その支払方式は「プリペイド方式」が太宗を占めることになりました。

昨今、AFTER コロナ、WITH コロナへの対応として、鉄道事業者においては時間帯別運賃が検討されていますが、「ポストペイ方式」であれば、これに柔軟に対応することが可能であると考えられます。

また、テレワークが普及すると、定期券を購入するかどうかわかってしまうところですが、「ポストペイ方式」であれば、利用実態に合わせた最適な運賃の請求が可能であると考えられます。

このように考えると、横江さんが構想された「ポストペイ方式」は当時予見できなかった20年先の時代にも対応できる柔軟なシステムであったと言えるのではないのでしょうか。

私が申し上げたかったことは、以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。

本日は、最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。